

① 研究課題名：大動脈瘤あるいは腸骨動脈瘤に対する緊急ステントグラフト留置時における N-butyl cyanoacrylate（以下、NBCA）の使用に関する後方視的検討

② 研究の目的：

動脈瘤が破裂し、出血した場合には、ステントグラフト（人工血管に針金状の金網を縫い合わせたもの）により血管を補強し、動脈瘤内に血液が流れないようにする緊急手術が行われます。ところが、一定の確率で再出血や動脈瘤の拡大を起し、再治療が必要となることが分かっています。当院では、ステントグラフトの治療を行う際、止血が困難な方を対象として、ご同意いただいた方に限り、生体接着剤の一種である NBCA を止血のために使用して治療を行っています。この研究は、NBCA を用いることにより再出血や動脈瘤拡大の予防的効果があるか、また使用することで予期せぬ問題が生じていないかを検討することを目的としています。

③ 研究期間：西暦 2019年 10月～ 西暦 2019年 12月 31日

④ 研究代表者及び研究実施施設一覧

研究代表者：名古屋市立大学大学院医学研究科 放射線医学科 大場翔太

研究実施施設：名古屋市立大学大学院医学研究科 放射線医学科  
名古屋市立東部医療センター 放射線科

⑤ 研究の対象：

以下 a) b)を全て満たす方を対象としています。

- a) 名古屋市立東部医療センターにて、2014年 12月 9日から 2019年 2月 28日までの間に、大動脈あるいは腸骨動脈という血管に瘤があり、同部位が破裂し、緊急でステントグラフトによる治療を受けられた方
- b) ステントグラフト内挿術時に NBCA 使用に同意し、使用された方

⑥ 調査項目：

- ・ 基本情報：ステントグラフト内挿術施行時の年齢、性別、動脈瘤の部位
- ・ ステントグラフト内挿術に関する情報：治療日、使用したステントグラフトの種類、NBCA の使用方法（濃度、量、入れた場所）
- ・ 予後情報：術前後のバイタルサイン（血圧など）、術後合併症、術後の再出血や瘤内血流の有無、転帰

⑦ 研究の方法：

研究担当医師が、対象となる方の診療録より「⑥調査項目」の情報を調査し、「症例調査票」に記入します。得られた情報は、名古屋市立大学大学院医学研究科 放射線医学科へ提供され、集計・解析されます。

⑧ 研究成果の公開

論文で公表することを予定しています。

⑨ 個人情報の保護

あなたのカルテ番号とは異なる新たな番号を付番し、その番号を用いて症例調査票を作成します。このため、個人情報が外部に漏れることはありません。

この研究に参加されたくない（あなたのデータを使ってほしくない）場合は、医療者にその旨をお伝えください。

⑩ 利益相反

本研究に係る利益相反はありません。

⑪ 問い合わせ先

研究事務局	所属	研究責任者
名古屋市立東部医療センター 住所：〒464-8547 名古屋市千種区若水1丁目2番23号	放射線科	武藤昌裕 TEL : 052-721-7171 (代表)